



「AR」はアーカイブズとアーキビストの頭2字をとり、歴史情報を守り未来に生かすさきがけの使命を表しています。

## 大分県公文書館だより

平成24年3月 第19号



「私の地位」(昭和三年 大分県知事官房発行)

## 『昭和初期大分県の主要物産』

明治初期の大分県の物産は、手を加えない自然の物産が主力でした。

大分県は養蚕や紅茶製造の奨励、展覧会の開催、内国勸業博覧会への参加など、殖産興業政策を推進し、近代産業育成に力を注ぎました。

展覧会社を興し、明治八年四月十五日から二十日間、荷揚町(大分市)で展覧会を実施しました。出品物の売買もでき、営商の指導を展覧会社が行い、まさに大分県版博覧会でした。

万国博覧会への参加や、展覧会実施が起爆剤となり、大分県の産業が変貌・発展していきました。

その結果、昭和初期には畳表、紡績・綿織物、セメントなどの加工品が多くなりました。

「私の地位」(昭和三年)では、畳表や金・銀・水産加工物などが全国でも上位にランキングされているのがわかります。

この本が作られた目的は、数字ばかりでむずかしい「統計書」をわかりやすくするため、人口、産業、教育などいろいろな分野で大分県と他県を比較したランキング本となっています。

当館は大分県政の「生き証人」である公文書はもちろん、近現代の大分県の姿を知りうる様々な記録なども保存しています。皆様の積極的な利用をお待ちしています。

## 公文書館企画展

平成二十四年二月三日から三月二十日まで、豊の国情報ライブラリー（県立図書館・公文書館 先哲史料館）三館合同企画展「大分のアーカイブズ」資料にみる大分の災害」を開催しました。

近年、各地に被害をもたらしている長雨や台風をはじめ、さきの東日本大震災等に代表される地震や津波のような大きな自然災害は、いつ発生してもおかしくなく、災害への対応を常に心がけておく必要があります。こうしたことから、本県では、現在、「災害に強い県土づくり」を積極的に推進しています。



企画展展示風景

## 災害への対応と対策

今回の企画展では、県公文書館が所蔵する公文書や行政資料、写真などを活用しながら、明治から昭和の豪雨や台風の被害状況がどのようなものであり、それに対しどのような対策が講じられたのかなどを振り返る展示を行いました。

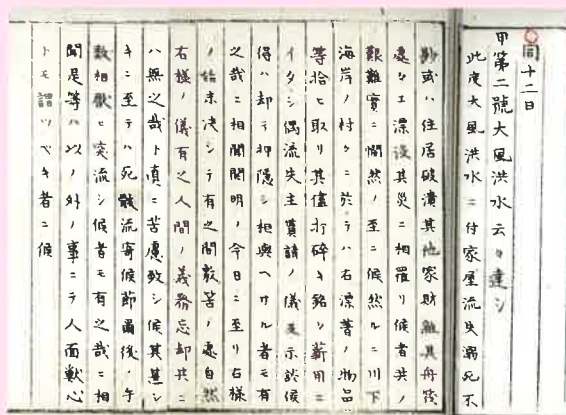
過去の災害関係資料によれば、当時の風水害に対し、建造物や河川・交通路などの損壊復旧に加えて、感染症を防ぐために大きな努力が払われていたことなどを知ることができます。

過去の風水害に少しでも関心や理解を深め、今後の災害に備えたいと思います。

以下、その一部を紹介いたします。

### 【明治六年の「大風洪水」】

明治六（一八七三）年十月に発生した「大風洪水」に関して大分県が県民へ布達したものです。主な内容は「大風洪水」で家屋の流失などの被害が出たが、川下の者には「漂著」の物品を勝手に処分したり、流れたり、死骸を突流す者もいる。このような所業は、<sup>もつて</sup>「以」外であるので、厳重なる処置をすることなどです。



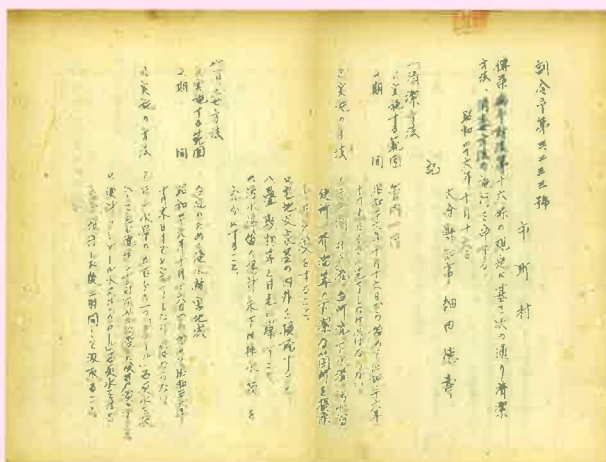
『県治概略 第四』

## ルース台風被害への衛生措置

ルース台風は、大分県の中央を南南西から北東に縦断して通過しました。このため風水害による死者三十七名をはじめ、県下の被害は膨大な額にのぼりました。台風の中心が通った経路付近やその西側では、被害は予想外に少なく、経路の東側にあたる県東部及びその沿岸地方では高潮もあって被害が特に大きくなりました。

昭和二十六年十月、大分県は各保健所（支所）へ台風被害にあつた市町村に「<sup>ばんぜん</sup>萬全の衛生措置」を行わせるように手配しています。

また、市町村には清潔方法と消毒方法の施行を命じています。具体的には下水溝や汚水溜などの不潔な箇所を掃除することや、畳、敷物などを日光にさらすことなどです。



『ルース台風関係書類-水害に対する衛生措置』

## 記録史料保存セミナー

平成二十三年八月五日に、公文書館・先哲史料館・別府大学（アーカイブズセンター）共催による『第4回記録史料保存セミナー』を開催しました。市町村の文書管理行政担当者及び教育委員会文化財担当者、大学生、歴史研究グループ等から約五十名が参加され、古文書分野・公文書分野の三つの講演と意見交換を行いました。講演の概要は以下のとおりです。

### 地域史料への想い

杵築市・久米忠臣氏の講演

### 『杵築市の活動を通して』

四十歳から同志八人で会を設立し、郷土史研究に携わってきた。良き先輩に囲まれいろんな勉強会などに参加し、様々な史料と出会ったことなどや、会の活動などについて講演がありました。

また、これからの市町村の図書館への期待や提言を述べられました。

### 地域史料への想い

豊後大野市・芦刈政治氏の講演

### 『豊後大野市の古文書を読む会について』

「古文書を読む会」は毎月一回学習会の開催や、出版物を出したり発表会をするなどの活動をしています。

何百年も前の祖先が書いた文を、生のまま読めるのは楽しくて歴史のおもしろさがわかると会員たちは言っています。

京都や江戸中心の歴史から郷土中心の歴史を体験してみませんかと講演がありました。

## 東日本大震災における記録史料の被災状況とその教訓

天草アーカイブズ主宰 橋本電輝氏の講演

天草市での公文書水損被害経験を生かし、東日本大震災への救済活動を行ってきた。

まず、天草市での水損被害から得た教訓

『日頃の文書保存・管理の大切さ』

①何が被災したのか把握できない↓そうならば重要な文書の救出が遅れる。

②未然に防げるか？↓保管場所の問題あり

③職員の意識：資料保存の重要性・処置の緊急性の認識が大切

東日本大震災の被災状況の説明

それから得た教訓

①まず初動：時間的猶予がない

②救出対象文書は？↓緊急の選別は困難

③緊急時マニュアル（連絡体制等）の必要性

④被災地の職員は被災復興の業務により、公文書まで手が回らない。早期の救済には、自治体職員や専門家、公文書館関係等の支援が必要。



### まとめ

【公文書とは】

- ・市民の宝
- ・市民の権利を保障するもの
- ・未来を作り上げる基
- ・地域が歩んできた歴史的証拠

## 大分県歴史資料保存活用

### 連絡協議会の運営

平成二十二年十月一日県内市町村の歴史的公文書及び古文書等に関する業務を支援するため、大分県歴史資料保存活用連絡協議会を設立しました。（会員：十八市町村、別府大学、県総務部県政情報課、県公文書館、県立先哲史料館）

また、平成二十四年二月七日に大分史料協主催の「平成二十三年度市町村担当者学習会」を開催し、三十五名の参加のもと、講演と古文書・公文書の分科会による意見交換会を行いました。

①講演・別府大学文学部 針谷武志教授

「市町村の歴史的公文書収集の現状」

明治十一年からの郡区町村編制法、市制町村制、明治、昭和、平成の市町村大合併など、その節目ごとの地方行政文書の作成・整理・保存についてや、平成二十三年四月の公文書管理法が施行されてからの現状や、市町村の今後の対応について講演がありました。

②講演・中央大学大学院

大学記録史料学研究兼任講師

水野保氏

「市町村の公文書収集保存のあり方」

明治初期の文書管理・保存の様子や、公文書の価値について説明がありました。また、公文書館の機能について、調査研究を行う専門職員のあり方、これからの公文書館の目指すかたちについてなどを述べられました。

意見交換会では、A「古文書」、B「公文書」グループ二班に分かれ、歴史的に重要な公文書や古文書・地域史料等を収集・保存活用することの重要性について再認識するとともに、各市町村の収集・保存の現状と様々な課題について活発な情報交換・意見交換が行われました。参加者からは「情報提供の場としてこれからも活動してほしい」、「非常に参考になった」、「時間をもちとって」などの声が多く寄せられました。

## 別府大学アーカイブズ研修

文書館専門職員養成課程を開設し、アーキビストの養成に取り組んでいる別府大学の「アーキビスト養成課程の実習施設」として当館が協力しています。平成二十三年度は九月十五・十六日に二十一名を受入れ、資料収集後からレファレンス業務に至るまでの流れを実際に即した形で体験してもらいました。

「明治期の公文書と昭和期の県報」を題材に、収集した資料を公文書館資料検索システムに登録整理する作業の実習や、想定問題での来館者の求める資料を、資料検索システムにより検索し、提供するまでのレファレンス業務を実習してもらいました。



(レファレンス業務実習風景)

登録作業では、文字の解読に苦労しました。また、レファレンス業務では、積極的にキーワードを入力する様子がありました。

し、来館者の求める資料を検索している様子がありました。

## 第三代大分県知事・西村亮吉の貴重な史料が公文書館へ

第三代大分県知事西村亮吉のひ孫、西村徹雄さん(東京都)から、元知事に関する文書や手紙など三十四点を当館に寄託していただきました。当時の様子を知ることのできる大変貴重な史料です。

史料は、元知事が一八九一年に鳥取県知事への転任を命じられた際の大分県共立教育会総裁辞任あいさつ文、部下が書いた出張日誌、貴族院からの手紙や、家族への手紙などです。

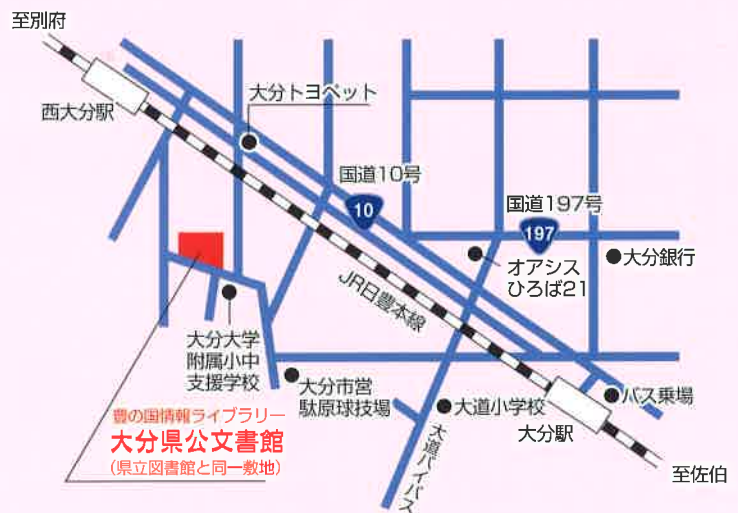


西村亮吉といえば、県議会と激しく対立し、自由民権運動を押し込んだ側面が強調され、強面のイメージでした。しかし、史料を読み進めていくと家族への愛情を垣間見ることが出来ます。(左・西村徹雄さんと高野公文書館長)

## お知らせ

公文書館では、明治以降の大分県が作成した公文書等で、歴史的に重要と思われる資料を集め、保存、整理して利用者の方に公開をしています。明治以降の資料についての情報、ご相談がありましたら、公文書館までぜひご連絡ください。

## 案内図



## ～利用案内～

### 利用時間

午前9時～午後5時

### 休館日

日曜日、月曜日

国民の祝日

(日曜日または月曜日と重なった場合は火曜日)

年末年始

特別整理期間

発行日 平成24年3月31日発行

### 編集・発行

大分県公文書館

〒870-0814 大分市駄原587-1

TEL 097-546-8840

FAX 097-546-8849

ホームページ <http://www.pref.oita.jp/site/346/>

メールアドレス a11103@pref.oita.lg.jp